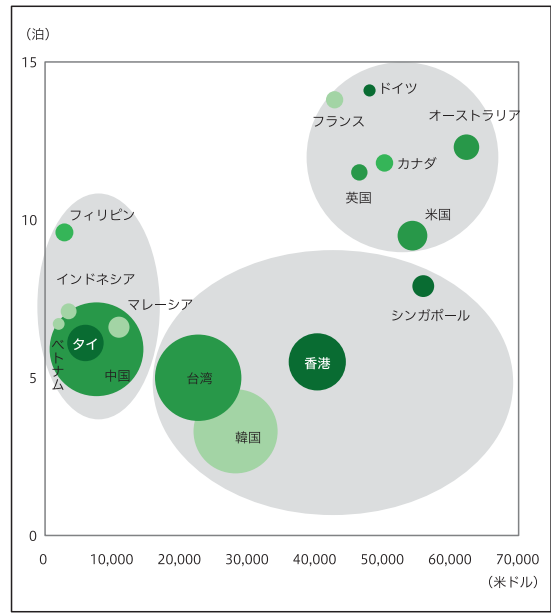
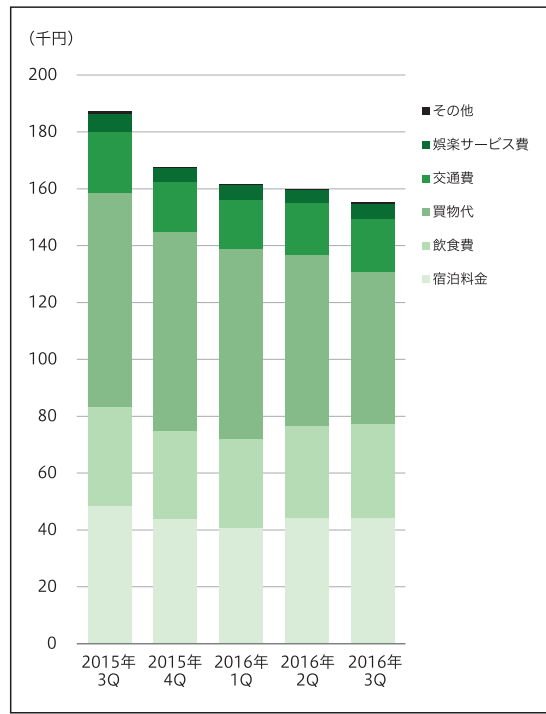


図表3 1人当たりGDPと訪日旅行者の平均泊数



出所) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」、総務省「世界の統計2016」より筆者作成  
注) 1人当たりGDP(名目:米ドル)は2014年、平均泊数は2015年の数値。バブルの大きさは、観光・レジャー目的の旅行者数を示す

図表2 訪日旅行者1人当たり旅行支出の推移



出所) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」より筆者作成

徹底分析!

# インバウンドのニーズはこう変化している 量から質、モノから体験へ 日本に対する期待が変化

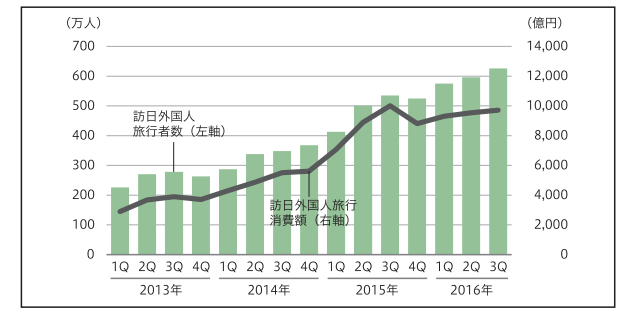
訪日外国人観光客の行動に最近、どんな傾向や特徴が見られるのかを解説する。  
岡野武志 大和総研 主席研究員

インバウンド旅行の人気は根強く、2016年の訪日外国人旅行者数は、10月のうちに前年の記録を上回り、2000万人の舞台に乗せた。16年7-9月期(3Q)の旅行者数は過去最多の626万人に達し、前年同期比約17%増となっている。

一方、訪日外国人の旅行消費額は、15年3Qに初めて四半期ベースで1兆円を突破した後は伸び悩み、1兆円を下回る水準での推移が続いている(図表1)。報道などでも取り上げられているとおり、旅行者の買物需要は大きく変化しており、16年3Qの買物代の総額は前年同期に比べて685億円ほど少なくなっている。

この間、旅行者数は増加しているため、1人当たりの買物代は前年同期比で約3割減少したことになる。為替水準が円高方向に動いたことも影響してか、買物代だけでなく、1人当たりの宿泊料金や飲食費なども減少している。1人当たりの旅行支出は、ピークとなった前年同期の18万7000円から次第に縮小し、16年3Qは15万

図表1 訪日旅行者数と消費額の推移



出所) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」より筆者作成

5000円にとどまっている(図表2)。

政府が策定した観光ビジョンは、東京でオリンピック・パラリンピックが開催される2020年に、訪日外国人旅行者数を4000万人に増やし、訪日外国人の旅行消費額を8兆円に拡大する目標を掲げている。しかし、このような状況が続くと、旅行者数の目標を達成できたととしても、旅行消費額で目標を達成することは難しく

のボリュウム層の一角をなしている。気軽に日本に來られる旅行者は、滞在期間が短く、買物以外の支出はそれほど多くない。しかし、リピート率が高いこのグループでは、訪日の回ごとに目的を持ち、訪問地を変えながら、複数回にわたって日本を楽しむ旅行者もみられる。政府は、共通の観光資源を訪れる旅行者の増加に向け、「テーマ別観光による地方誘客事業」などに取り組んでおり、ロケツアーリズムや酒蔵ツアーリズムなどの事業が支援対象として選定されている。

経済発展の途上にある新興国のグループは、インバウンド旅行者数も増加の途上にある。新興国のグループは、ビザ要件の緩和や格安航空便の増加などにより、富裕層以外にもインバウンド旅行の裾野が広がっているため、初回来訪者の比率が相対的に高い。滞在期間や1人当たりの旅行支出は、欧米等と近隣国の中間的な位置づけにあるが、中国からの旅行者は、既に年間500万人を超える規模に達している。欧米等と比べれば

長期間の欧米  
短期・リピートの近隣国

訪日旅行者数が比較的多い国と地域について、1人当たりの名目GDPと日本国内での平均泊数をプロットしてみると、概ね三つのグループに分けられることが分かる(図表3)。日本への渡航距離が長い欧米やオーストラリアなどのグループは、観光・レジャーの旅行者数は近隣国の規模には及ばず、日本への初回来訪者の比率も高い。しかし、1人当たりのGDPが大きいこれらの国からは、日本に長期間滞在して、複数の観光地を訪れる旅行者も多い。このような旅行者は、自ら滞在中の周遊プランを立てることも多く、団体ツアーやパッケージ旅行を利用せず、航空券や宿泊を個人で手配する比率が高い。

1人当たりのGDPが中間的な水準にあり、日本に比較的近い韓国や台湾などのグループでは、国内旅行に近い感覚で日本を訪れる旅行者も多く、インバウンド旅行

日本への渡航距離が短いこのグループには、今後さらなる旅行者数の増加やリピート率の上昇が期待されている。

インバウンドの浸透に  
重要な連携とネットワーク

インバウンド旅行の経験者が増え、リピート率が高くなっていくと、インバウンド旅行は、大都市や有名な観光地だけでなく、様々な地域に広がる段階に差し掛かってくる。政府は、「地域資源を活用した観光地魅力創造事業」などにより、観光資源の磨き上げに意欲のある地域の取組みを支援し、インバウンド旅行の地域への広がりを後押ししている。滞在期間の長期化やリピート率の向上に向けては、複数の都道府県に跨がる「広域観光周遊ルート」の形成を促進しており、テーマ性やストーリー性を持った一連の魅力ある観光地の連携やネットワーク化が進められている。

経済的に余裕があり、自由度が高い欧米等からの旅行者は、個々の興味や関心に応じて旅行を組み